

# 広島の原点について

広島を創ったのは戦国大名の毛利輝元です。戦国時代の末、毛利家は中国地方最大  
の大名として今の山口県、島根県、鳥取県そして広島県と岡山県の半分を支配下に置  
いていました。

その時の都は吉田で、手狭なため、輝元は都の移転を決断します。

中国五県の中で最も新しい都にふさわしい場所、都の土地探しが始まりました。

都を決める最大のポイントは土地の持つエネルギー、力ある土地を探さなければな  
りません。

その時に使った智慧が風水の考えです。風水思想は5世紀頃、中国から伝わった総  
合環境技術です。古代に於ける最新の科学です。

地球上の地形はすべて異なります。同じ地形は二つとして存在しません。

風水の考えは地形を読みとり、その土地が持つ固有のエネルギーを調べ、大地の持  
つ力を利用するのが風水学です。輝元とその軍師達は、まだ寒村であった、現在の広  
島の周囲をくまなく調べあげ、中国地方のあらゆる土地のエネルギーを調べ、最もエ  
ネルギーの強い場所を見つけました。それが二葉山です。

毛利輝元は、風水の智慧を使って自分の領地のすべてを調べました。

大地のエネルギーが四方八方から終結する場所を探しました。

古代中国で発達した風水学は、天のエネルギーと地のエネルギーを利用して軍略に  
用いる実用的な環境学です。

自然界のエネルギーには一定の法則、道筋があります。地球に入ってくるエネルギー  
の最大のものは太陽から来るものです。

どの地域にいても必ず東から謝して来ます。当たり前ですが「当たり前だというこ  
とが法則だと言うことです」

この東から入る太陽エネルギーに次いで大きなエネルギーは、地軸に従って北から  
入ってくる宇宙エネルギーです。

すなわち、東と北から強大なエネルギーを受けて入ることが根本原則です。  
(鬼門) 東北の方角を鬼門として遠ざけ敬い、大事にして来たのも風水学の智慧です。  
東と北のエネルギーが交差する東北は、一番強くエネルギーが作用します。

そして地球は北と南の地軸が東北に約23度傾いています。この23度の傾きが地球  
に春、夏、秋、冬の季節をもたらしている根本的な原因です。

すなわち、あらゆる面から見て、東北の方角は地球のエネルギーが最も強く作用する方角なのです。

そして輝元は、最も中国地方でエネルギーが強い場所を見つけました。

中国地方最大の山「大山」から流れる東北、西南のエネルギーの最大のポイントが二葉山でした。

二葉山の東は太陽信仰の聖地、伊勢神宮。西は、後に毛利家に移り住む萩です。

二葉山の西南には宮島があり、輝元は二葉山のふもとに大干拓工事を行い、広島城と城下町を作ることになるのです。

大地のエネルギーを味方につけること、これこそが国を治めるために一番必要なことです。

その後、毛利家は関ヶ原の戦いで西軍の大將であったため、敗軍の将として格下げに合い、山口に押し込められました。

その時、毛利家は、二葉山の真西約100kmの萩に城を築きました。

二葉山を通じて、真東は伊勢を臨む場所だったからです。

あくまで大地のエネルギーを味方につけようとしたのです。

輝元がみつけた大地のエネルギーが四方八方集まる最高の場所が二葉山なのです。

これが広島が発展してゆく第一歩です。

古代の最高の環境学、宇宙の理と地球の理を調べて国を治めるために役立てる方法で、古代から都が築かれて来ました。古代の日本の都である奈良の平城京も、京都も、風水の考えで設計された都です。

平安京を創った桓武天皇は風水思想に則り、御所の東北の比叡山に天台宗の僧、最澄に命じ、国を守る国家守護の寺を建立させました。それが比叡山延暦寺です。

そして輝元も同じように、広島城を守るために二葉山のふもとの明星院を国を守る祈願の寺にしました。

今の東京、昔の江戸は徳川家康が創った壮大な都です。家康は軍師であった僧、天海に命じて都を作ってゆきました。

江戸城の場所を定めて、その次に桓武天皇が行ったと同じように、江戸城の東北に国家守護の寺として上野寛永寺を置き、日々祈りをささげさせました。

このようにすべての重要な、国作り、都作りには風水の智慧、すなわち自然のエネルギーと共生する環境技術ができたのです。

時代が変わり、広島の領主が浅野家が変わった時、ちょうど徳川家光の時代に、家光は全国の大名に命じて、祖父、家康の御魂をとむらうため、東照宮を建立させました。

その時の浅野家の当主は、徳川家光の従兄弟の浅野光<sup>みつあきら</sup>易でした。そして彼は二葉山のふもとに広島東照宮を建てました。このようにして二葉山は特別に大切にされて来た、広島の聖地、霊山なのです。

そして時は移り近代になり、明治維新を経て、新しい日本が誕生しました。明治天皇の下、国づくりが始まりました。

しかし、新しい国を建設して27年後に、困難がやって来ました。朝鮮半島をめぐる、日本と清国の間で行われた日清戦争です。

近代国家になって初めての戦争です。敗北するわけにはいきません。

この時政府は、東京から大本営を広島に移すと言う、大決断を下しました。

戦略的に考えると長崎か、博多か、下関に移した方が戦いに於いては便利です。しかし、明治天皇は広島に大本営を移すことを決断されました。

これは天皇家には古来、平城京・平安京の昔から地理風水の考え方が連綿として引き継がれたいたからです。

東京より西の方面で、最も大地のエネルギーが強いのは二葉山がある広島しかなかったのです。

大本営が東京から移動したのはこの時だけです。

そして明治天皇は6ヶ月の長きに渡って広島城にお住まいになりました。すなわち広島は帝都になったのです。

広島が大発展をとげてゆくのは、この大本営の移転が大きなきっかけになったのです。広島は日本最大の陸軍の軍都になり、海軍の拠点の一つが呉になりました。

そして、6ヶ月間の間、広島城の明治天皇は東北の二葉山の方にむいて祈りをささげられました。皇居も広島城から見ると東北東にあるのです。

このように広島を作った毛利輝元と、広島の大発展の礎を作られた明治天皇、広島はこの二人の大恩人のことは決して忘れてはなりません。

二葉山がエネルギーに満ちている為、二葉山の森には日本一の森が現存しています。シリブカガシと言うカシの群生地として日本最大の面積を誇っています。シリブカガシは群生しにくいカシの種類で、日本の中でも十数ヶ所しか群生していないのです。

森の大切さ、環境保護の大切さが言われている時代に、この歴史的に見て広島の原点とも考えられる二葉山にトンネルを掘ると言うことは歴史に対する冒瀆と言わざるを得ません。

国を治める最大のポイントは治山、治水を行うことです。

山のエネルギーと水のエネルギーを自然に合わせてコントロールしてゆくことで

す。これをうまく行えば、国は栄えます。

昨年の広島の土砂災害は天災ではなく、人災です。山の上に昔から建物を建ててはいけないと言われていた土地に建てたため、大量の雨を受けとめることが出来ませんでした。

日本中に数多く、鬼門として敬われている山があります。すべて大切にしています。たとえば比叡山にトンネルを掘ると言ったら、京都の人はどのような反応をするでしょうか。あまりにもバカげた話として一蹴してしまうでしょう。

すべての物事には因果の法則があてはまります。原因がなければ結果は起こりません。

広島に原爆がおちたのも、この法則があてはまります。広島が日本最大の陸軍の都、軍都になったからです。長崎は海軍の最大の拠点でした。

戦争は相手の軍事基地を破壊することを第一に考えます。

しかし、広島は大地のエネルギーが集結した、日本有数の素晴らしい土地でしたから、70年間草木もはえないと言われていたのに、瞬く間に復興してゆきました。

毛利輝元がみつけ、明治天皇が再発見した、素晴らしい広島の土地。この大地の力を正しく利用してゆけば、広島はますます発展してゆきます。

土地のエネルギーに逆らえば必ずシッペ返しを受けます。

平成7年1月17日に起こった阪神大震災は天災ではなく、人災です。

神戸は六甲の山々を切り崩してポートアイランドや六甲アイランドを作りました。すなわち山を治める治山に逆らったのです。この結果、起こったのがあの巨大地震でした。

このように土地の持つエネルギーを正しく効果的に使うか、あるいはまったく無視して経済的、合理性だけを追求してゆくかで全く結果は異なります。

広島に住む私達は、広島のなり立ちを知り、広島の歴史を知り、広島の土地の力を知り、先人達の尊い智恵を借りて、この素晴らしい町をこれからも未来に向けて発信してゆかなければなりません。

二葉山は広島の原点、広島が今、存在する原点の山です。

数百年の長きに渡って守られて来ました。

この山を破壊するのをやめ、守ってゆくべきものと信じます。

エネルギーと共生する環境技術ができたのです。

時代が変わり、広島の領土が守られて来ましたが、今、この山を破壊する人が出て来ている。これは全国の大勢の山々にも通じる問題です。

二葉山を守る会 会長 中 村 憲 二